

北海道佐呂間高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 116名

1 事業のねらい

本事業の実施により、学校内外における教育相談体制の整備を進めるとともに、関係機関等と連携した取組を進めることなどを通し、本校の高1クライシス未然防止の、より一層の充実を図る。また、生徒間の交流や教員間の連携の見直し、工夫を行い、生徒が感じる不安やストレスを減少させ、学校生活のより一層の充実を図る。

2 取組の経過

- 4月 個人面談①の実施。
- 6月 本事業の実施校として決定。
- 7月 アサーション・トレーニング実施。
- 8月 個人面談②の実施。
- 9月 学級環境適応調査の実施・分析①。
教員による集団カウンセリング研修、
宿泊研修における集団カウンセリング
の実施（道立深川青年の家）。
- 11月 個人面談③の実施。
- 12月 学級環境適応調査の実施・分析②。
コーディネーターの中野武房先生による
集団カウンセリング①及び教員研修会
の実施。
- 2月 コーディネーターの中野武房先生による
集団カウンセリング②の実施。

※担任による学級通信の発行（日刊）
※各種集会時における指導

<組織図>



3 主な取組の内容

- (1) 宿泊研修における集団カウンセリング
 - ア アイスブレイク（集団内における自分の位置の確認）
 - イ フルーツバスケット（集団の認知による緊張の緩和）
 - ウ 単語づくり（協力関係を築くことを目指す活動）
 - エ パースデーリング（協力による連帯感や所属意識の育成）
 - オ アサーション・トレーニング（自己肯定感の高揚）

〔生徒の感想〕

 - ・アサーション・トレーニングでは、会話は内容よりも態度や表情が大きく関係していることや会話は話し手も大事だが、聞き手の役割もとても大事だということに驚いた。
 - ・友達ともっと仲良くなれた気がした。普段話さない人とも話せた。これからは相手の気持ちを考えて話したい。
- (2) 第1回集団カウンセリング（中野武房先生）
 - ア うし・うまゲーム（ウォーミングアップ）
 - イ 相談しやすい人・話しかけやすい人はどんな人か
 - ウ 内観法（「自分がしてもらったこと」を振り返る）



〔生徒の感想〕

- ・みんなに話しかけてもらえるように笑顔でいたいと思った。内観法で今までのことを思い出すことができた。親に感謝しなくてはいけないと思った。
 - ・人に感謝することはとても大切なことだと思った。普段してもらっていることにも感謝しなければならなかった。すごくよい授業だと思った。また、機会があれば受けてみたい。
- (3) 教員研修会
『学校教育相談の考え方・在り方 ～面接相談の進め方を中心に』
- ア 教育相談の機能
 - イ 相談面接の基本姿勢
 - ウ 「傾聴」とは
 - エ 様々なカウンセリング理論（来談者中心療法、ブリーフセラピー、精神分析、交流分析、コーチングなど）
- (4) 第2回集団カウンセリング
ア イメージシンクロ（ウォーミングアップ）
イ プラスのストロークを与えよう
ウ 「友達にしてもらってうれしかったこと」を考えよう
エ 足し算トーク
- 〔生徒の感想〕
- ・ゲーム形式でコミュニケーション能力を鍛えられるのは、本当に楽しかったです。私の将来の夢はコミュニケーションが大切な仕事に就くことなので、前回の授業も今回の授業もとてもためになった。
 - ・相手のことの良いところを見つけたり、自分のよいところを見つけてもらったりして、お互いに相手のことを考えることによって、よい人間関係になっていくのだと思った。



4 成果と課題

- 成果
- (1) 中野先生による集団カウンセリングを通して、特に他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒や困り感を持つ生徒が、自己開示することの大切さを学んだ。このことを実践することにより、自ら積極的に集団の中に入っていくことができるようになり、自分の困っていることを自己開示できるようになってきた。
 - (2) 中野先生による教員研修会を通して、教員はこれまで経験に頼ってきた教育相談やカウンセリングの理論や手法を、体系的、理論的に再確認することができた。研修会で学んだことを踏まえながら個人面談を行ったことにより、生徒が抱えている悩み等に的確にアドバイスすることができ、これまで積極的に学校生活を送ることができなかった生徒が、学習活動に対してやりがいを持てるようになってきた。
 - (3) HR担任は、学級環境適応調査によって客観的に把握した生徒一人一人の適応感やクラスの様子を参考にしながら、個人面談やHR経営を行った。このことにより、第2回学級環境適応調査においては、第1回に比べて生活満足感が2ポイント上昇した。
- 課題
- (1) 教員全員が、生徒の発するサインを見逃さないよう一層努める必要がある。
 - (2) 生徒自身が納得したり、合意したり、自ら選択していく指導の充実を図り、教室の中に、互いに話し合う関係性をつくることを一層推進する必要がある。
- 次年度に向けて
- (1) 小中高大及び地域社会との連携を一層充実させて、地域社会で生徒を見守る体制づくりをさらに進める。
 - (2) 学級環境適応調査の活用や教育相談の手法についての校内研修をより一層充実させ、教員一人一人の生徒理解に係るスキルアップを図る。